

令和元年度 第14回教育トーク開催

「教育トーク」とは、教育委員、保護者や地域、学校関係者が日頃考えていることや願っていることについて意見を交換し、芦屋市の教育を共に考える会です。

日 時・場 所

令和元年8月7日（水）

今年度のテーマ

「人とのつながりの中で育む 子どもの生きる力」

- 子どものコミュニケーション力をはぐくむために
- 子どもが地域の一員として行動するために
- 子どもが自らの夢に向かって取り組むために

参加者数

潮見中学校区 43名
精道中学校区 52名
山手中学校区 51名



主な意見

- 子どものコミュニケーション力をはぐくむために
 - ・子どもが自分の気持ちを周りの大人や友達に受け止めてもらえたという安心感をもつことから、コミュニケーション力が育っていく。
 - ・大人が先に話してしまうことが多くなっていないか。まずは、子どもが自分で思っていることを伝えられるよう、話をしっかりと聴くことが大切である。
 - ・子どもが自ら考えて行動するために、周りの大人がすぐに手を貸さず、子どもに任せることで、子どもに困難を乗り越えていく力が育っていく。
 - ・学校で、相手の顔を見て話すことや声のトーン等、コミュニケーションの取り方に重点的に取り組んでいる。友達の話聴く姿勢が育ってきていると感じる。
 - ・相手の気持ちにより添える心の育成が、コミュニケーション力の育成につながる。
 - ・学校では相手のことを考えながら互いの興味や関心を引き出していく授業を進めている。これは相手を思いやる心の育成にもつながると考えている。

○子どもが地域の一員として行動するために

- ・地域の大人が手本を示し、その背中を見せることで子どもが地域の一員として行動する姿につながっていく。
- ・地域のコミスクや祭り等を経験した子どもが大人になって、保護者として参加し、世代交代しながら地域に関わっていくことを大切にしたい。
- ・芦屋では、地域の運動会やコミスク活動等、子どもの参加が多い地域もあり、今後も地域での活動を継続していきたい。
- ・子どもが地域にかかわっていくには、学校園や地域がその機会をつくりつながりを引き出していくことも必要である
- ・地域の方に毎朝子どもたちの登校時の見守りをさせていただいており、大変有難い。地域の中で子どもが顔見知りの人を増やすことが、地域とのつながりの始まりではないか。
- ・中学生が学校の周りを清掃し、地域の方からお礼を言っていたことがあった。“自分たちも役に立っている”という実感となり、とてもよい経験となった。

○子どもが自らの夢に向かって取り組むために

- ・子どもが将来について自分で考えられるよう、親はアドバイスや後押しをするのがよい。
- ・中学校のトライやる・ウィークが、将来の職業を考えるきっかけのひとつになっている。活動中に苦勞する体験も含めて、貴重な経験になっている。
- ・子どもの興味や関心は成長と共に変化していく。時に現実を知ったり、挫折をしたりするだろうが、周りの大人として夢は常に持ち続けられるよう支えたい。
- ・夢を実現するために、子ども自身にいつ、どのようなことをするのかを具体的に描かせ、できることから行動させることも夢の実現に向かうひとつの方法である。
- ・その職業についている人の話を聞いたり、書物を読んだりする経験ができるとうい。
- ・様々な人との出会いの場を作ったり、選択肢を広げ引き出しを多くもったりすることも夢の実現には必要である。子どもたちが豊かな経験ができるよう願う。